

令和8年8月5日

福島大学創立80周年記念事業パンフレットの完成について — 3つの記念プロジェクトのご紹介 —

福島大学は、令和8年5月13日の第203回定例記者会見において、令和11年に迎える創立80周年に向けた記念事業について発表しました。

このたび、記念事業の内容を広く紹介するパンフレットが完成するとともに、創立80周年記念事業の柱となる3つの記念プロジェクトを公表いたします。また、記念事業に関する情報を発信する特設ホームページを設置しました。今後、パンフレットやホームページを活用し、学内外への情報発信を進めて参ります。

◎創立80周年記念事業パンフレットの完成

福島大学創立80周年記念事業の基本コンセプトや今後の取組を広く紹介するパンフレットを作成しました。パンフレットには、創立80周年記念事業の趣旨や3つの記念プロジェクトなどが掲載されています。

◎3つの記念プロジェクト

創立80周年を契機として、本学の教育・研究・地域貢献のさらなる発展を目指し、次の3つのプロジェクトを展開します。

(1)【防災対応型運動施設整備プロジェクト】

(概要) 老朽化した陸上競技場を改修し、インフィールドの多目的フィールド化と防災機能の強化により、安全な教育・交流環境を整備し、大学のブランド価値向上を図ります。

(2)【自然共生キャンパス環境整備プロジェクト】

(概要) 金谷川キャンパスの自然環境を保全・活用し、「自然共生サイト」の活動を推進。教育・研究・地域連携の力で生物多様性を守り、持続可能な社会の実現に貢献します。

(3)【知の継承と発信のための資料館構想プロジェクト】

(概要) 本学の学術資料や研究成果を保存・公開し、学生の学びを支える教育資源として活用するとともに、大学の理念や特色を発信する教育・研究・広報の拠点となる資料館を設置します。

※各プロジェクトの詳細は添付パンフレット、資料をご参照ください。

◎創立80周年記念特設ホームページの設置

創立80周年記念事業に関する情報を発信するため、特設ホームページの仮ページを設置しました。本ページでは、創立80周年記念事業の概要やパンフレットなどを掲載しています。今後、各プロジェクトの詳細やイベント情報、最新のお知らせなどを順次掲載していく予定です。

URL: <https://www.fukushima-u.ac.jp/80th.html>

(お問い合わせ先)

総務課 広報・渉外室 広報係

電話：024-548-5190

メール：kouho@adb.fukushima-u.ac.jp

陸上競技場が 生まれ変わる！

福島大学陸上競技場は、長年にわたり授業や課外活動、地域スポーツ活動の場として、多くの学生や地域の皆さまに利用されてきました。

また、本競技場で研鑽を積んだ学生の中には、国内外の競技大会で活躍し、オリンピック出場や日本記録の樹立など、優れた成果を挙げた人材もいます。

この競技場は、学生の成長を支える教育環境であるとともに、地域との交流を育む大切な場として、その役割を果たしてきました。

一方で、施設は長年の使用によりトラックや競技設備の老朽化が進み、安全性や機能面での課題が顕在化しています。

トラック舗装の摩耗や設備の経年劣化は、利用者の安全確保や競技環境の維持に影響を及ぼすだけでなく、公認競技場としての機能維持にも課題を抱えています。

また、この陸上競技場はキャンパスにおける災害時の避難場所として位置付けられており、学生や教職員の安全を支える重要な役割を担っています。

さらに今後は、地域との連携を一層深め、地域住民の避難場所や防災活動の拠点としても活用できる施設を目指しています。

そのためには、防災備蓄庫や給水設備、照明設備など、防災機能を計画的に充実させることが重要です。

本プロジェクトで 取り組むこと

学生の挑戦を支え、地域とともに災害に備え、未来につながる学びと安心を育む。
そのような新たな価値を備えた運動施設の実現を目指しています。

学生の挑戦を支え、地域の安全を守る「未来型フィールドへ」

防災対応型運動施設整備プロジェクト

★学生の学びと挑戦を支える教育環境の充実 ★地域に開かれた交流・スポーツ拠点の創出

★安全で質の高い競技環境の整備

★防災対応型施設への機能強化

お問い合わせ先：国立大学法人 福島大学 基金事務局（総務課広報・渉外室内） 〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地
TEL：024-503-4991 FAX：024-548-3180 E-mail：kikin@adb.fukushima-u.ac.jp
福島大学基金ホームページ：https://www.fukushima-u.ac.jp/donation

希少植物、昆虫、鳥たちが息づく“生きた学びの森”を未来へ

自然共生キャンパス環境整備プロジェクト

福島大学金谷川キャンパスは、2025年12月、環境省が認定する「自然共生サイト」に認定されました。福島市では初、福島県内でも6件目となる認定であり、本学が長年にわたり取り組んできた自然環境の保全活動と、その価値が高く評価されたものです。

金谷川キャンパスは、1979年の移転以前から地域の里山として親しまれてきた場所です。現在も雑木林や草地、水辺など多様な環境が残され、植物約450種、チョウ類・トンボ類約90種、鳥類約100種が確認されるなど、豊かな生物多様性を育んでいます。さらに、環境省レッドリスト掲載種であるオオムラサキやキンランをはじめとする希少な動植物も生息・生育しており、地域に残された貴重な自然環境となっています。

この豊かな自然は、教育・研究のフィールドとして活用されるだけでなく、学生や教職員が自然と向き合い、生物多様性や環境保全を実践的に学ぶ「生きた学びの場」として重要な役割を担っています。

これまで本学では、学生・教職員が協働しながら、下草刈りや外来種の駆除、生態系モニタリング調査、自然環境を活用した教育・研究などの活動を継続してきました。こうした積み重ねが評価され、「自然共生サイト」への認定につながるとともに、国際的な生物多様性保全の枠組みであるOECMにも位置付けられています。

一方で、この豊かな自然環境は、そのまま維持されるものではありません。里山環境を保全し、生物多様性を守り続けるためには、継続的な管理や調査、教育・研究活動を支える環境整備が欠かせません。

福島大学では、この貴重な自然環境を未来へ受け継ぎ、教育・研究・地域との連携に生かしながら、人と自然が共生する持続可能なキャンパスづくりを進めていきます。

本プロジェクトで取り組むこと

- 里山環境の保全・維持管理
- 希少動植物の生息・生育環境の保全
- 生態系調査・モニタリングの充実
- 自然を活用した教育・研究活動の推進
- 学生・地域と連携した環境保全活動の展開



金谷川キャンパスの豊かな自然は、福島大学だけでなく地域社会にとってもかけがえのない財産です。この環境を未来へ継承し、次世代の学びと生物多様性保全につなげることを目指しています。

福島大学は、明治初期にさかのぼる古い歴史、地域の経済や教育を支えてきた伝統、震災以降の復興・地域再生でのめざましい貢献がありながら、それを紹介する博物館も資料館也没有せん。

福島大学は、1874年開校の福島師範学校講習所・1921年開校の福島高等商業学校に端を発し、福島経済専門学校・福島師範学校・福島青年師範学校として明治時代以降の福島の経済や教育を支えてきました。

戦後の教育改革の中で、福島大学は新制大学として発足し、地域社会とともに教育・研究・社会貢献を積み重ねてきました。

特に東日本大震災以降は、復興・地域再生に取り組む知的拠点として、多くの学生、教職員、地域の皆さまとともに新たな知と実践を育んできました。

その長い歩みの中で蓄積されたアーカイブズ（資料・記録）や研究成果は、福島大学だけでなく、地域の歴史や復興の歩みを伝える貴重な財産でもあります。

しかし現在、それらの多くは学内に分散して保管され、十分な保存・活用環境が整っているとは言えません。
また、福島大学の歴史・伝統や今を伝える展示也没有せん。

福島大学が地域とともに明治時代以降に育んできた知と記憶は、未来へ受け継ぐべき大切な共有財産です。

資料館は、過去を振り返るだけの場所ではなく、
新たな学びや対話を生み出し、
大学と地域をつなぐ交流の場としての役割も担います。

こうした知的資産を適切に保存し、教育・研究・地域連携に生かしながら次世代へ継承するため、資料を体系的に整理・公開し、必要に応じて収集していく拠点が求められています。

本プロジェクトで取り組むこと

- ・ 福島大学の歴史・伝統や今を伝える展示機能の整備
- ・ 自然史や歴史・民俗など大学の地域研究上貴重な資料の収集、保存、デジタル化
- ・ 福島大学が保持している大学アーカイブズや歴史的研究成果の保存体制の確立
- ・ 学生や地域と協働・交流する展示や教育プログラムの展開
- ・ 地域の自然・文化や震災復興の歩みを広く発信する企画の実施

知の継承と発信のための資料館構想プロジェクト

福島大学にも
資料館が欲しい。